

企業ニュース **ダイキン工業**

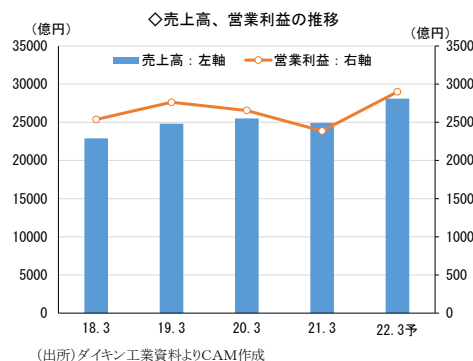
(東証1部: 6367) <https://www.daikin.co.jp>

作成者: 奥村義弘

空調市場のリーディングカンパニー

1924年創業。空調を中心に展開する。様々な業務用・家庭用エアコン、冷凍・冷蔵装置などを扱う。フッ素化学製品でも世界的メーカー。半導体エッチング剤、フッ素樹脂、フッ素ゴム、通信ケーブル用樹脂などの製品群を有する。建機向け油圧機器、防衛省向け砲弾なども取り扱う。

戦略経営計画「FUSION25」では、成長戦略3テーマとして「カーボンニュートラルへの挑戦」「顧客とつながるソリューション事業の推進」「空気価値の創造」を掲げる。「北米空調事業」を強化地域に設定。定量目標は26.3期の売上高3.6兆円、営業利益4,300億円（営業利益率12%）を目指す。21.3期の売上高構成比は空調・冷凍機91%、化学7%、その他2%。



旺盛な需要に高いソリューション力で応える

22.3期・第1四半期（4-6月）の連結業績は売上高が7,990億円、前年同期比37%増、営業利益が1,093億円、同100%増。空調・冷凍機事業は売上高が7,356億円、同37%増、営業利益が1,000億円、同94%増。先進国を中心に住宅用空調の需要が想定を上回った。電子部品などの不足にも柔軟に対応した。欧州ではヒートポンプ式温水暖房機器も好調な需要を捉えた。北米の収益改善は好印象で、生産性を改善し、住宅市場の旺盛な需要を捉えた。化学事業は売上高が504億円、同42%増、営業利益が79億円、同198%増。半導体・自動車市場の需要回復を捉えた。

22.3期の通期会社計画は売上高が2兆8,100億円、前期比13%増、営業利益が2,900億円、同22%増。期初計画を営業利益で200億円上方修正した。業務用空調の需要回復の遅れ、新型コロナウイルス感染拡大、原材料・物流費の高騰などがリスク要因だが、第1四半期の好調を反映した。主力の空調・冷凍機では、住宅用空調での新商品投入や空気・換気商材の拡販・シェアアップ、業務用空調での市場別・用途別ソリューションの強化、欧州のヒートポンプ式温水暖房機器の拡販などを図る。また売価施策を徹底、販売の上振れに備えた供給の構え、コストダウンを推進する。

[株価動向・投資判断]

強い販売力に加え、EV向けエアコン用新冷媒、革新的電池向けフッ素化学技術など、環境対応の新技术にも関心が集まる。プレミアムを付けた評価が可能であろう。

<6367 ダイキン 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期利益 | 1株利益 | 1株配当 |
|--------|-----------------|---------------|---------------|---------------|-------|--------|
| | 百万円 (伸び率) | 百万円 (伸び率) | 百万円 (伸び率) | 百万円 (伸び率) | 円 | 円 |
| 20.3 | 2,550,305 (▲3) | 265,513 (▲4) | 269,025 (▲3) | 170,731 (▲10) | 583.6 | 160.00 |
| 21.3 | 2,493,386 (▲2) | 238,623 (▲10) | 240,248 (▲11) | 156,249 (▲8) | 534.0 | 160.00 |
| 22.3 予 | 2,810,000 (▲13) | 290,000 (▲22) | 290,000 (▲21) | 190,000 (▲22) | 649.3 | 180.00 |



| [主要株価指標] (売買単位: 100株) | |
|-----------------------|--------------------|
| 株価 (2021/8/27) | 26,515 円 |
| 年初来高値 (高値日) | 26,920 円 (21/8/25) |
| 同 安値 (安値日) | 19,905 円 (21/6/9) |
| 予想 P E R (22.3 予) | 40.8 倍 |
| 1株株主資本 (PBR算出用) | 5,901.2 円 |
| P B R | 4.49 倍 |
| 予想配当利回り | 0.68 % |
| (1株当たり配当金 180.00円) | |
| R O E (21.3) | 10.1 % |
| 発行済み株式数 | 29,311 万株 |